

事案名	糸満市の事案（沖縄県47-1）
分類	発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄タイムス』平成10年9月29日～10月3日〔1〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査について」平成15年8月26日〔2〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査について」平成15年10月21日〔3〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔4〕
資料内容概要	<p>沖縄県糸満市において、毒ガス弾「ちび弾」が、3回発見されている。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸満市における遺骨収集時に、昭和51年1月30日に「ちび弾」らしきもの1発が、また、1月29日から3月2日にかけても「ちび弾」らしきものが1発発見され、自衛隊がこれらをコンクリート詰めにして海洋投棄したと記載されている〔4〕。 ・新聞記事によると、平成10年7月11日に、那覇市在住の住民が、糸満市の陸軍病院壕跡地（第24師団）で遺骨を採集中に、壕の入り口から約70mの地点で丸瓶を1個発見した。9月に大学研究者が鑑定した結果、「ちび弾」（青酸入り手投げ丸瓶）であることが判明した。地元では付近の集落にいた部隊を「ガス部隊」と呼称していたという〔1〕〔2〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、壕の入り口は埋め立てられており、内部に入ることはできない〔1〕〔3〕。付近の集落の飲料水は上水道を使用している。井戸は当集落内に4カ所あるが、農業用水や庭木の散水等に使用している〔3〕。